

新潟県教育長賞

学べる幸せ

新潟大学教育学部附属長岡中学校

三年 坂井 有沙

毎日、明るい教室で仲間と一緒に勉強できることを、あたりまえだと思っていませんか。私達中学生の年間教育費は一人当たり、約百万円以上。三年間で三百万円もかかります。でも、日本では、小・中学校の義務教育である九年間は、税金のおかげで、無償で教育を受けることができます。これは決してあたりまえのことではなく、とても幸せなことなのです。

二〇一四年、パキスタンに住む、マララ・ユスフザイさんがノーベル平和賞を受賞されました。彼女は、激しい銃撃に耐えながらも自由に学校に通いたいという思いを訴え続けました。私達は朝起きて、毎日学校に行きますが、マララさんの住む、パキスタンの子供達は、学校へ行きたくても、生活のために働かなければならず、学校に行くことができないのです。日本の子供達に「勉強は好きですか。」と質問しても、「好き。」と即答する子供はあまり多くないと思います。しかし、あるパキスタンに住む女の子は「大好き。」と答えたそうです。私はそれを聞いて、私達が勉強をできることをあたりまえのように思っている気がないだけで、学ぶことができるというのは、とても幸

せなことなのだと思わずかされました。

進級すると配られる、真新しい教科書、全員分きれいに並べられた机と椅子、空調の整った教室など、教育のために、年間五兆円以上もが、多くの人によって納められた税金でまかなわれています。どうしてこんなにも多くの税金が、教育に使われているのでしょうか。私は、これからの日本のリーダーとなる私達への期待の込められた投資なのではないかと思っています。

勉強をしたくてもできない状況に置かれている人も世界にはたくさんいる中、こうして毎日学校に通うことができていることはとてもありがたいことです。こうして税からの恩恵を受け、教育を受けることのできる、幸せな私達はこの環境に感謝しなければなりません。

私は今回、教育に使われている税金のことや、外国の教育の状況について調べたり、考えたりする中で、これから私達がいかなければいけないことを二つ考えました。一つは、税金によって使うことのできる、教科書や、学校、学校の物などを大切に使うことです。私達のためにたくさん税金が使われていることを忘れず、それが無駄にならないようにしたいです。もう一つは、十年後、自分達が未来の子供達に投資できるように立派な大人になることです。そのために、学ぶことのできる幸せをかみしめながら、一步一步前に進んでいきたいです。